
君の声

桜井葉月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の声

【Nコード】

N2336U

【作者名】

桜井葉月

【あらすじ】

君はどこに行った…？私の時は止まったまま。私の思いを受け止めて……。

君の声が聞こえた気がした

振り返っても誰もいなかった

いつも君の後ろ姿を見ていたけど

今はそれさえ見れない

何気ない会話も

ふざけ合う事も

全て無くしてしまった

君の笑顔が好きで

ただ傍にいたくて

それ以上なんて望んでなかった

でも、それさえダメだったのかな…？

空が紅く染まった夕方

私の時はあの頃から止まったまま

お願い、帰ってきて

ねえ、また笑ってよ

私の名前を呼んで

私の時を進めて

世界は色を失ったまま

友達の慰めも

家族の労りも

何もかもが無意味なんだ

君じゃなきゃ無理なんだ

他なんて無い

泣いてどうにかなる事じゃない

笑って誤魔化したく無い

大切だから

この傷が癒える事も

君の代わりが現れる事も

一生無い

「
優那^{ユナ}」

名前を呼ばれた気がした

けど、振り向いても誰もいなかった

空が紅く染まった夕方

君と歩いた坂道で

君の声が聞こえた気がした

「
……青真君^{セイマ}」

どこにいたの？

（後書き）

初めて詩を投稿しました。

この詩は具体的な内容を書かず読者様の想像に任せようと思ったのですが、皆様はどのような結末を思い浮かべましたか？

もしよければ教えてください、正解者は発表…何て事はおそらくありませんが、お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2336u/>

君の声

2011年10月8日00時16分発行